

国立大学
法人 滋賀医科大学

2005-2006

活動実績 ダイジェスト

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE
ACTIVITY DIGEST
2005-2006

地域に支えられ世界に挑戦する大学





滋賀医科大学の理念

滋賀医科大学は、地域の特徴を生かしつつ、特色ある医学・看護学の教育・研究により、信頼される医療人を育成すること、さらに、世界に情報を発信する研究者を養成することにより、人類の健康、医療、福祉の向上と発展に貢献する。

教育理念

豊かな教養と高い専門的知識及び技能を授けるとともに、確固たる倫理観を備え、科学的探究心を有する医療人及び研究者を養成する。

教育目標

- 1 課題探求、問題解決型学習を通して、適切な判断力と考察する能力を養う。
- 2 豊かな教養を身につけ、医療人としての高い倫理観を養う。
- 3 コミュニケーション能力を持ち、チーム医療を実践する協調性を培う。
- 4 参加型臨床（臨地）実習を通して、基本的な臨床能力を習得する。
- 5 国際交流に参加しうる幅広い視野と能力を身につける。

滋賀医科大学の使命

滋賀医科大学は、幅広い教養と医学及び看護学のそれぞれの領域に関する高い専門的知識及び技能を授けるとともに、確固たる倫理観を備え、有能にして旺盛な探求心を有する人材を育成することを目的とし、もって医学及び看護学の進歩、発展に寄与し、併せて社会の福祉に貢献することを使命とする。

（滋賀医科大学学則第1条より抜粋）

2005

4月

April

- 基礎医学講座の再編
- 実験実習支援センターを設置
- 附属病院に化学療法部を設置
- 看護学科に助産師課程を設置
- 県内12大学単位互換開始
- 入学宣誓式、大学院入学宣誓式

5月 May

- 浜松医科大学との交流会
- 解剖体納骨慰霊法要

6月 June

- 関連病院長会議
- 「人獣共通感染症（鳥インフルエンザ、SARS、BSEなど）に関する基礎研究連携事業」がスタート

7月 July

- 4大学共同「眠りの森」事業が経済産業省「電源地域活性化先導モデル事業」に採択

8月

August

- 附属病院に栄養治療部を設置
- オープンキャンパス
- 第1回滋賀医科大学・長浜バイオ大学研究情報交換会（第2回：11/1）
- 附属病院に不整脈センターを開設

9月 September

- 文部科学省選定医療人GPに本学プロジェクトが採択
- 外国人留学生等の研修旅行

10月

October

- 解剖体慰霊式
- ゼロエミッションプロジェクトの計画を報道発表
- 大学発ベンチャー企業「バイオサム」が遺体衛生保存処置技術を報道発表
- 若鮎祭（学園祭）
- 附属病院に炎症性腸疾患センターを開設

11月 November

- 本学教員が第42回（2005年度）エルウィン・フォン・ベルツ賞を受賞
- 滋賀県との懇談会（地域医療について意見交換）

2006

1月

January

- 産科オープンシステムの運用開始（国立大学附属病院初）
- 大学ホームページをリニューアル
- 留学生との交流会「国際交流のタベ」
- マイクロ体内ロボットの開発成果展示会（文部科学省「都市エリア産学官連携促進事業」）
- 附属病院にペインクリニックセンターを開設

2月 February

- 医療人GPによる「患者様訪問実習」の開始
- 学外有識者会議
- 個別学力試験（前期日程）

3月

March

病院再開発事業による新病棟の建築着工

附属病院では、5カ年（平成17～21年度）にわたる病院再開発事業として、まず新病棟の建築に着工しました。この事業が完成しますと、病院内の環境はもちろん患者さまのアメニティはすいぶん改善されるものと期待しております。

新病棟完成予想図



- 学位授与式、卒業式
- 滋賀医大、滋賀大、龍谷大、滋賀県による地域貢献シンポジウム

医療人育成教育研究センターで、質の高い医療人育成のため、教育方法の改善や学生の在学中及び卒業後の活動を調査しました。また、文部科学省の大学教育改革支援プログラムに採択され、同プログラムに基づく医学教育を実施しました。今年度は達成できませんでしたが、国家試験の目標数値達成に向けた対策も実施していくこととしています。

平成17年度 文部科学省「地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム(医療人GP)」選定

一般市民参加型全人的医療教育プログラム 期間 H17~19年度

◀ 全人的医療とは… ▶

単に患者の病気だけを見るのではなく、社会面、経済面、心理面などその人をとりまく環境を幅広くとらえながらケアする医療。



※写真掲載には患者さまの同意をいただいております。

このプログラムは、平成17年度に文部科学省から特色ある優れた大学教育プログラムに選定され、財政支援を得て実施しているもので、平成19年度までに次のプロジェクトを予定しています。

- 6年間一貫患者訪問実習
- 一般市民参加型の面接医療実習(全学年で実施)
- 全人的医療・学年縦断グループ能動学習と市民・学生参加シンポジウムの実施



6年間一貫患者訪問実習

コミュニケーション能力の向上と患者さまを全人的に捉え理解することを目的とし、**第1学年学生と第4学年学生がペアを組んで患者さまへの訪問実習**を実施しました。その際、訪問実習を効果的かつ能率的に行うために、学生はコンピューター端末機能を有するPDA(小型情報端末)を携帯しました。

【学生の声】

- 医療に対する患者さんの生の声を多く聞くことができ、大変勉強になった。回数を重ねるに従い、自分が興味のある医療の分野などにも触れながら意見交換できればよいと思う。(第1学年女子)
- このプログラム自体は、患者さんの生の生活や苦しみを知ることができるので、有意義だと思う。早いうちから現場に触れておくことの大切さを実感した。(第1学年男子)
- 「治療のため」の治療ができないとき、医師は何を考え、なすべきかを改めて考える契機となった。(第4学年女子)

一般市民・学生を交えたシンポジウム

天津市内のピアザ淡海にて、第1回全人的医療を考える市民・学生参加シンポジウムを開催しました。一般市民、学生、教職員ら合わせて129名が参加し、患者さま代表、学生代表を含めた各講師の興味深い講演に耳を傾けるとともに、熱心な意見交換がありました。講演、全体討論を通じて患者さま側が日常感じていることをとらえ、グループ能動学習のテーマとしてさらに掘り下げて検証していくことにしています。

【プログラム】

- 「かかりつけ家庭医と全人医療」
佐野 潔 先生(パリ・アメリカン病院)
- 「全人的医療と「物語」医療」
齋藤清二 先生(富山大学保健管理センター)
- 「一般市民が医者に求めるもの」
滋賀医科大学模擬患者さまの会員
- 「医学生が勉強すべきこと」
医学科第6学年学生

医療人育成教育研究センター 教育方法改善部門と調査分析部門が報告書を作成

教育方法改善部門

さらなる授業方法向上のため、評価事項に柔軟性をもたせるよう新評価表を導入した授業評価を実施し、その結果を公表しました。

調査分析部門

入学前から在学中及び卒業後の活動を調査し、その結果を公表しました。卒業生が「信頼される医療人」に必要なと考える要素は以下がベスト3でした。

- ①誠実・誠意・責任感 ②人間性・人格・心・人柄 ③知識・知力

平成16年度 文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」選定

産学連携によるプライマリ・ケア医学教育プログラム

期間
H16~17年度

地域の診療所での実習と研修

地域保健・医療を担う地域医師会と連携し、地域の診療所等のプライマリ・ケア医を教育担当医とした診療所実習を組み入れた医学生臨床実習及び研修医研修を実施しました。

【学生の声】

- 診療所での診療というのは病気を診るというよりも、その患者さん一人一人の生活に根ざした、患者さん自身を診ることがよく分かりました。(第5学年女子)
- 大学病院と違い、全身のあらゆる症状の症例が次々と出てきて本当に実践的な知識が要求されることを肌で感じる事ができた。(第5学年女子)
- 限られた時間の中で必要な問診・診察を瞬時に判断、実行されていたことに驚いた。こういった医療は自分の専門分野の視野しか持たない医師には不可能である。(第5学年男子)

◀ プライマリ・ケアとは… ▶

病気やけがをした時、最初に受ける地域の「かかりつけ医」による診療。全人的に対応する地域の医療。



このプログラムは、文部科学省から特色ある優れた大学教育プログラムに選定され、財政支援を得て実施したもので、平成16年度から平成17年度にかけて次のプロジェクトを実施しました。

- 地域の診療所のプライマリ・ケア医を指導医とした診療所実習及び卒業後研修
- 地域診療所医師の生涯学習のための機会を提供
(リフレッシュセミナー、スキルズラボの開放)

平成18年 国家試験の合格率

平成18年の国家試験合格率は、全国平均は上回ったもののいずれも中期計画に掲げた目標数値を達成することができませんでした。

国家試験区分	目標数値	合格率	
		平成17年	平成18年
医師	95%以上	96.4% (全国平均89.1%)	91.8% (全国平均90.0%)
看護師	98%以上	100.0% (全国平均91.4%)	93.2% (全国平均88.3%)
保健師	95%以上	92.6% (全国平均81.5%)	91.7% (全国平均78.7%)

対策 国家試験合格率 医師95%以上、看護師98%以上、保健師95%以上を目指し以下の対策を実施します。

【医学科】 成績下位の学生(第5学年、第6学年)に対して、学習や生活状況の個別指導や助言を行う後期アドバイザーとして担当教員を割り当て指導を行う。

【看護学科】 第4学年の担当教員が卒業論文指導学生に対して、国家試験に向けた復習など細かな指導も併せて実施する。

研 究

Research Activities

何でもできる大学でなく、何かができる大学を目指し、本学の重点プロジェクトを推進しました。近隣大学・自治体・民間企業等の交流を積極的に推進した結果、大型研究プロジェクトを獲得し、外部資金が対前年度比で26.4%の大幅増となりました。

重点プロジェクトを推進

研究プロジェクト	主な活動実績 (H17年度)
1 サルを用いた医学研究	<ul style="list-style-type: none"> ●人獣共通感染症（鳥インフルエンザなど）に関する基礎研究連携事業【文部科学省】を推進 ●アルツハイマー病モデルサル作成プロジェクトをスタート
2 核磁気共鳴（MR） 医学研究	<ul style="list-style-type: none"> ●MR画像による生体内標識幹細胞の無侵襲追跡技術と再生医療への応用 → 科学研究費補助金（基盤S）を獲得【（独）日本学術振興会】 ●診断・治療のためのマイクロ体内ロボットの開発 → 都市エリア産学官連携促進事業【文部科学省】 ●MR画像対応手術支援マイクロ波機器の開発 → 科学技術振興調整費を獲得【文部科学省】 ●医療応用を目指したナノ炭素化合物の修飾法、分析法の確立と画像診断素子への応用 → 産業技術研究助成事業に採択【（独）新エネルギー・産業技術総合開発機構】 ●MRI・蛍光同時計測による生体内分子・細胞イメージング法の開発 → 戦略的創造研究推進事業さきがけタイプに採択【（独）科学技術振興機構】（H18.01スタート）
3 神経難病研究	<ul style="list-style-type: none"> ●アルツハイマー病の画像診断法の開発 → 滋賀県との共同研究プロジェクト【滋賀県】 ●アルツハイマー病治療薬の開発 → 保健医療分野における基礎研究推進事業に採択【（独）医薬基盤研究所】
4 国際疫学共同研究	<ul style="list-style-type: none"> ●日米3集団の潜在性動脈硬化症危険因子に関する国際疫学共同研究 → 科学研究費補助金（基盤A）を獲得【（独）日本学術振興会】

新たな研究プロジェクトを展開 =ゼロエミッションプロジェクト=

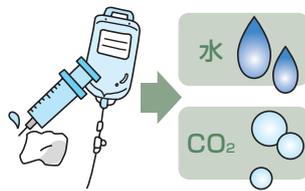
本学では、すべての医療廃棄物を大学内において完全処理する『ゼロエミッション:廃棄物(=エミッション)がゼロになることを目指すという考え方』の実現に向けて、草津電機(株)等と共同でプロジェクトを展開しています。

「酸化チタンの超高速触媒反応による医療廃棄物の低温省エネ分解法」で地域新規産業創造技術開発費補助事業【経済産業省近畿産業局】に採択されました。



◀ プロジェクト概要 ▶

廃棄物の中でも、最も特徴的で問題が多く感染の危険性がある医療廃棄物(血液が付いたガーゼや注射器など)を焼却せずに、水や二酸化炭素に分解し無害化するための装置の開発を進めており、すでの実証実験にとりかかっています。実現すれば、環境にやさしいだけでなく病院のコスト削減にもつながります。



バイオメディカル・イノベーションセンターを設置



企業等の研究者に広く門戸を開き産学官の連携をより一層進めることを目的に、レンタルラボ・オフィスとして「バイオメディカル・イノベーションセンター」を設置しました。

本センターが産学官交流の場となり、社会で活用される優れた研究成果が生まれることを期待しています。

入居を希望される場合や詳細については下記までお問い合わせください

〈問い合わせ先〉

国立大学法人 滋賀医科大学

バイオメディカル・イノベーションセンター

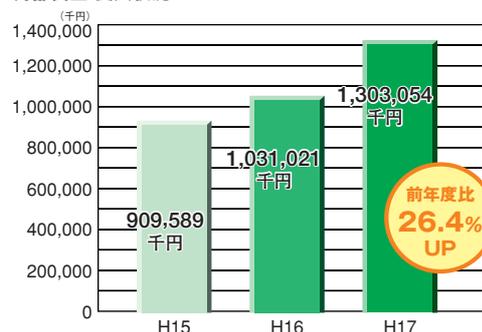
〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

TEL.077-548-2896

外部資金の獲得が順調に推移

重点プロジェクトを中心として学外に認められるような研究成果が増え、大学全体の外部資金の獲得総額は1,303,054千円となりました。

外部資金 受入状況



診 療

Clinical Activities

患者さま中心の効率的で質の高い医療を提供するため、難度の高い心臓血管診療、高度先進医療の推進、化学療法部、ペインクリニックセンター等を設置し機能集約型診療体制を推進しました。また、地域中核病院として産科オープンシステム、地域連携インプラントシステム等の運用開始及び滋賀治験ネットワークの設立、三次救急への積極的取組等を行いました。

患者さまへのサービス向上

- 病院玄関前にバス駐車場を新設して通院を安全かつ便利にしました。
- ボランティアから成るモニタースクラブを設立し外部からの評価や提言を得ることとしました。

高度専門的心臓血管診療の推進

- 難度の高い心臓血管バイパス手術等の症例が県内の病院から緊急搬送され、総手術件数は前年度より12%増加しました。
- 不整脈治療の高度化を目指した不整脈センターを立ち上げ、難治性不整脈診療件数が前年度より15%増加しました。

質の高い医療の推進

- 高度先進医療(5件)を推進しました。

1	ないしきょうかけいぶりようせいしゅようてきしゅつじゅつ 内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術 最小限の切開により、頸部の良性腫瘍を内視鏡下で摘出します。
2	31 ³¹ P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断 体に負担の少ない方法で糖尿病患者さまの足病変(潰瘍・壊疽など)の診断を早期かつ正確に行います。
3	インプラント義歯(インプラント治療) あごの骨の中に埋め込んだインプラント体(人工歯根)の上に人工歯冠をつけ、歯の欠損を回復する治療。 義歯やブリッジと違い、違和感がなく自分の歯と同じように咬むことができます。
4	樹状細胞と腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法 がん組織に集まりこれを持異的に殺傷するよう培養されたリンパ球を点滴により患者さまの体内に移入します。 本院では乳がん・肺がん・消化器がん等を対象疾患としています。
5	抗がん剤感受性試験(CD-DST法) 患者さまから採取した腫瘍組織より各種抗がん剤の有効性を評価し、個々の患者さまにあった抗がん剤の選択・投与を行います。本院では、消化器がん・乳がん・転移性肝がん・転移性肺がん・がん性胸膜腹膜炎を対象疾患としています。

- 睡眠障害センターで院外に睡眠障害に関するサテライトクリニックを新設しました。
- 化学療法部を設置し、専門家が外来において安全で高度な化学療法を実施できる体制を整えました。

地域中核病院としての取組

特色ある診療活動の活性化

- 全国の国立大学附属病院としては初めてとなる産科オープンシステムの運用を開始しました。
- 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病など)の最新治療を提供するため炎症性腸疾患センターを開設し、セカンドオピニオン外来を含めた専門外来を開始しました。
- 地域連携インプラントシステム、地域連携顎矯正治療システム(歯科口腔外科)の運用を開始しました。
- 滋賀治験ネットワークを設立し、質の高い治験に貢献しています。
- 痛みの治療を行う高度な専門部門としてペインクリニックセンターを設置し、地域での中心的な役割を担っています。

◀ 産科オープンシステムとは… ▶

妊婦健診が中心の診療所と、出産を担う拠点病院が役割分担や連携を進めるシステム。

三次救急(複数診療科にわたる処置が必要、または重篤な患者への対応)への積極的な取組

- 救急患者総数は年間14,116件(対前年比+8.1%)。
- 救急車搬送総数は年間2,817件(対前年比+1.7%)。

医療機関との患者受入・搬送をより積極的に行うために、患者搬送用自動車(ドクターカー)を導入



ドクターカー

単科医科大学の特色を生かし、地元小・中・高等学校への出前授業・模擬講義の実施及び公開講座、教養講座、健康学習会を開催しました。また、近隣大学・自治体・民間企業と連携した地域貢献事業を展開しました。

地元小・中・高等学校への出前授業・模擬講義を実施



授業・講義テーマ

- ・タバコ・アルコールが体に及ぼす影響
- ・呼吸・消化・血液循環のしくみ
- ・生活習慣病とは何か? など

〈実施数〉	年度	出前授業	模擬講義
	平成16年度	9校	1校
	平成17年度	16校	2校



公開講座・リフレッシュセミナーを開催



- 市民を対象にした公開講座、教養講座、健康学習会を開催しました。
- 地域保健・医療レベル全体を向上させることを目的に、医療人を対象とした実践的な講習会「リフレッシュセミナー」を5回開催しました。

〈開催数・受講者数〉

年度	開催数	受講者数
平成16年度	15回	1,326名
平成17年度	19回	1,677名

公開講座テーマ

- ・本当ですか?あなたの周りの癌予防法
- ・快眠知識を学ぼう
- ・高齢化・ライフスタイルと健康
- ・メタボリックシンドロームと食生活 など

【参加者の声(アンケートより)】

- お話をおうかがいし、滋賀医大の先生方の処方箋の向こう側を垣間見た気がしました。(40代女性)
- 医学の進歩のすばらしさ、地域に良い病院があることへの安心感を強く感じました。(70代女性)

近隣大学・自治体・民間企業と連携した地域貢献事業を展開

- 本学の医療福祉教育研究センターを中心に滋賀大学・龍谷大学・滋賀県と協力して、シンポジウム「障害者自立支援法で何がかわるのか：障害を持つ方とともにみんなで考えよう」を開催しました。
- 本学の睡眠学講座を中心に滋賀大学・龍谷大学・立命館大学・地元企業と連携した「眠りの森」事業(経済産業省「平成17年度電源地域活性化先導モデル事業」)を実施しました。

「眠りの森」事業の主な活動内容

睡眠指導士の育成 ・66名を睡眠教育・相談を行う「スリープマスター」に認定 ・33名をスリープマスターの指導等を行う「睡眠指導士」に認定
睡眠相談の実施 ・対面相談にて20件の相談に対応 ・他に電話相談・ネット相談も実施
睡眠ドック(夜間の睡眠状況の測定・把握)の実施 ・ホテル・自宅での睡眠ドックに45名が参加
睡眠講習会の実施 ・生活習慣病予防の観点から正しい睡眠知識を提供する市民対象の講習会を5回開催(参加者は計267名)



養成講座

県民アンケート調査を実施

本学は法人化後、「地域に支えられ、世界に挑戦する大学」を目標と掲げ様々な活動を行ってまいりましたが、「県民の方々からどのように捉えられているのか、どの程度理解されているのか」を判らないままスタートしたのではないかと反省し、平成17年度に「県民アンケート調査」を実施しました。

調査結果を受けて

- より地域の皆様に理解され支援される大学となるよう今後とも改善を行ってまいります。今回いただきました貴重なご意見・ご提案を次年度の年度計画に反映させていく所存です。
- 今回本学の情報発信の不足の指摘がありましたことを反省しまして、本学の活動内容等を広報誌、ホームページ、マスメディア等を通じてよりわかりやすくお伝えするとともに、直接地域の皆様との取組等を通じてより身近な大学となるよう取り組んでいければと考えています。

調査結果をまとめて冊子にしました。

大学内、病院内に備付けのラックにて配付しているほか、本学ホームページからもご覧いただけます。



【調査対象者】滋賀県内に在住の20歳以上80歳未満の3,000名
 【回収率】39.6%(回答者1,188人)

評価結果

Evaluation Results

平成17年度に係る業務の実績に関する評価の結果

本学が提出した「業務の実績に関する報告書」に基づき、国立大学法人評価委員会が評価を行ったものです。業務運営、財務内容、自己点検・評価、その他業務運営に関する重要事項については5段階評価がされ、教育研究等については各大学の特色ある取組みが記述式で記載されています。

1 項目別の本学の評価結果 (5段階評価で表記、5が一番上位) は以下のとおりでした。

① 業務運営	→ 4 (順調に進んでいる)
② 財務内容	→ 3 (おおむね順調に進んでいる)
③ 自己点検・評価	→ 4 (順調に進んでいる)
④ その他(業務運営に関する重要事項)	→ 4 (順調に進んでいる)

2 教育研究等の質の向上では以下のことが特色のある取組として評価されました。

- 大学独自の**奨学金制度**の運用開始。
- 卒業生の高校時、入学試験、在学中、国家試験の成績及び卒業後の進路等を調査し**中間報告書**を作成・公表。
- 臨地実習の依頼施設と**実習方針**などを協議。
- 県下看護関連教育機関からの要請で**系統解剖見学**を17件実施。
- **国家試験合格率**について自ら目標数値を設定し達成に向けて努力し、今年度は達成できなかったがその要因分析を実施。
- **実験実習支援センター**を発足し基本構想の策定と満足度調査を実施。
- シンポジウムを開催するなど**地域貢献支援事業**を推進。
- **コメディカル部門**で教育プログラムの充実、受託実習生等を積極的に受入。
- **産科オープンシステム**の実働的運営を開始。



奨学金授与式



シンポジウム「障害者自立支援法で何が変わるのか」

3 以下のことについては、今後の課題として指摘されました。

- **院外処方箋発行率**について、病院の立地条件などにより、平成17年度は75.7%となり、目標数値(80%)を下回っている。

対応策 現在の状況を分析し目標数値の見直しを行いました。

- 全学的な**危機管理マニュアル**が策定されていない。

対応策 平成18年度中に全学的な危機管理マニュアルを策定します。

各種広報誌により、みなさまに大学の活動内容をお知らせしています。

滋賀医大ニュース

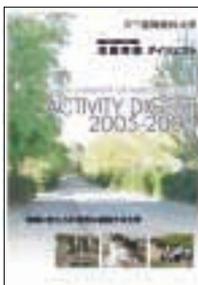


本学の教育・研究・診療などの情報を広く学外向けに発信している広報誌です。

掲載内容の一例

- 「睡眠」をめぐる研究について
- 『眠りの森』健康サービス事業
- 網膜硝子体疾患の外科的治療

2005-2006活動実績ダイジェスト



本学の教育・研究・診療等の活動実績をとりまとめた冊子です。

掲載内容の一例

- 教育面での活動
- 研究面での活動
- 診療面での活動

勢多だより



主に学生、教職員を対象とした学内広報誌です。

掲載内容の一例

- 平成18年度 入学宣誓式
- 第31回 浜松医科大学との交流会
- 新任教員紹介

滋賀医大病院ニュース



主に患者さま向けに附属病院関係の情報を提供している広報誌です。

掲載内容の一例

- 玄関前バス乗り入れ
- 新病棟の建設に着手
- 炎症性腸疾患センターの開設

大学概要2006

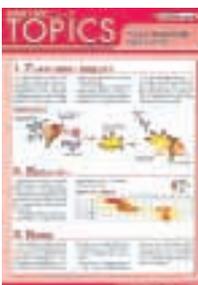


本学の組織・統計資料・学内配置図など基本的な情報をまとめた冊子です。

掲載内容の一例

- 理念及び目的、組織機構図
- 学年暦、学生数
- 教育研究施設、附属病院

病院ニュース別冊トピックス



特定の疾患等をテーマに取り上げわかりやすく解説したパンフレットです。

掲載内容の一例

- “たばこ病”って、どんな病気？
- がん免疫細胞療法
- インプラント(人工歯根)治療とは？

大学内、病院内に備え付けのラックにて配付しているほか、一部広報誌は県内自治体、関連病院へもお届けしています。また、本学ホームページからもご覧いただけます。



情報公開・広報誌をクリック

ホームページを通じて大学、附属病院の最新情報を随時お知らせしています。

滋賀医科大学 ホームページ
<http://www.shiga-med.ac.jp/>

附属病院 ホームページ
<http://www.shiga-med.ac.jp/hospital/>

広報誌、ホームページについてのお問い合わせは下記までどうぞ

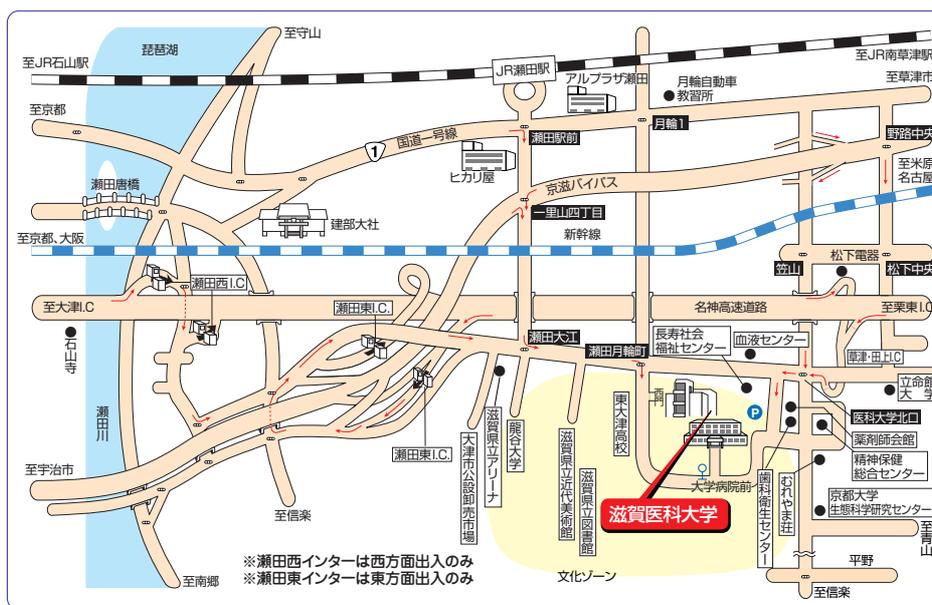
滋賀医科大学 企画調整室
TEL 077-548-2011
メール hqkouhou@belle.shiga-med.ac.jp



滋賀医科大学

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

<http://www.shiga-med.ac.jp/>



- JR瀨田駅から「滋賀医大」行きバスにて約15分
「医大西門前」又は「大学病院前」下車
- 名神高速道路「草津田上IC」から約5分

ご意見等の 連絡先

本学では、地域の皆様からのご意見等を今後の大学運営に活用させていただければと考えています。お気づきの点等がございましたら、下記連絡先までお寄せ下さいますよう、よろしくお願いいたします。

滋賀医科大学 企画調整室

T E L ● 077-548-2011
E-mail ● hqkouhou@belle.shiga-med.ac.jp
住 所 ● 〒520-2192 大津市瀬田月輪町

発行/平成18年12月

編集/滋賀医科大学・企画調整室



古紙配合率100%再生紙を使用しています

